

桐が谷通信

CHUBU GAKUIN UNIVERSITY
CHUBU GAKUIN COLLEGE

第 5 3 号 2 0 1 5 年 1 2 月 7 日

発行 中部学院大学 宗教委員会 〒501-3993
中部学院大学短期大学部 岐阜県関市桐ヶ丘二丁目1番地 TEL (0575) 24-2211

「座り続けた冬のある日、歩き通したクリスマス」

志 村 真 (中部学院大学短期大学部 宗教主事)

今からちょうど 60 年前の 1955 年 12 月 1 日、アメリカ南部アラバマ州モンゴメリーで事件が起こりました。その日の夕刻、一日の労働を終えたローザ・パークス (1913~2005 年) がバスの「黒人」席の前方に座っていたところ、「白人」席が一杯になったので白人男性に席を譲るよう運転手が指示。彼女が応じなかったために警察に通報され、逮捕されたという事件です。(当時のルールは、「白人」席が一杯になれば、「黒人」は席を譲らなければならないという理不尽なものでした。)

これに対して、その町のアフリカ系の指導者たちが、パークス女史の逮捕と人種隔離の座席指定に抗議するボイコット運動を 12 月 5 日から開始しました。そして、連邦最高裁がモンゴメリー市の座席隔離を憲法違反と判断する 1956 年 12 月 20 日まで、380 日以上にわたって粘り強く続けられました。アフリカ系の人々は車の乗り合いをしたり、徒歩で通勤したりして非暴力による抵抗運動を実践しました。これが後に「モンゴメリー・バス・ボイコット」と呼ばれるようになった非暴力直接行動です。このとき運動の代表に選ばれたのが 26 歳の青年牧師マーティン・ルーサー・キング Jr. 牧師 (1929~1968 年) でした。

キング牧師はそれ以降、徹底した非暴力主義を提唱し続け、その思想と実践に対してノーベル平和賞が贈られた (1964 年) ことはご存知の通りです。キング牧師はすでに学生時代に、ガンジーの非暴力主義について学んでいましたが、その思

想をアメリカ南部の現実の人種差別状況に適応しようとしたのは、この「モンゴメリー・バス・ボイコット」を通してであると言われてい

ます。その冬、一人の勇気ある女性が座り続けたことをきっかけにして、人種差別の撤廃へと歴史が大きく動きました。彼女の静かで非暴力的な「座る」抗議がアフリカ系の人々を動かし、その年のクリスマスから次の年のクリスマスまでの一年以上、5 万人ものアフリカ系が「歩き通した」のです。

一年後届いた正義の判決は、尊厳回復の喜びに満ちたクリスマス・プレゼントとなりました。

今年はそのから 60 年になります。今日、この冬もなお「座り続けている」人々がいます。また、クリスマス・シーズンを「歩き通す」人々がいます。沖縄の海辺で座り続ける人々がいます。また、ヨーロッパに向かう線路の上を歩き通す人々がいます。こうした冬に座り続け、クリスマスを歩き通す人々によって、世界は動かされてきました。



大クリスマスツリー (関キャンパス 2014)

私はこの「座る」には「ただ座って祈る」ことが含まれていると思っています。マハトマ・ガンジーは毎朝 3 時に起き、2 時間座して黙想し祈ったと言われてい

クリスマスの思い出

経営学部 網野 千代美

クリスマスにまつわる思い出はたくさんありますが、今回は留学中の思い出を紹介いたします。クリスマスや年末は一人異国で過ごす留学生にとってはホームシックに掛かる時期でした。イルミネーションが輝き、ツリーが飾られ、周囲が華やげば華やぐほど心が痛みました。でも、必ず友達のだれかからサンタが現われて家に招待してくれました。大きな七面鳥やたくさんの料理を前にして、悲しい気持ちが吹っ飛びました。クリスマス・シーズンにはだれもがハッピーにという友人たちのやさしい思いやりが心を癒してくれたのだと思います。それと街ですれ違う見知らぬ人々でさえ、穏やかで幸福そうな表情を浮かべて微笑みかけてくれる不思議な季節だとも感じました。人々がクリスマスの穏やかな気持ちを持ち続けられれば平和な世界を築くことができるのだと思います。2016年が皆様にとって良い年となりますように！

Merry Christmas & A Happy New Year!



きて職場に行って、仕事を終わったら自宅に帰る。誰もがやっている、ごくごく普通な日常に時折、疲れを感じるようになってきた。あれもやらなきゃ、これもやらなきゃ、でも時間が足りない。

時間が足りない...。これは単なる言い訳。多分、気持ちに余裕がないからだろう。こんな状態がここ数年ずっと続いている。

気持ちに余裕がもてないとき、心の中は圧倒的な不快感に覆われている。焦れば焦るほど、空回りする不遇な時間を癒してくれるのは、1年に1回やってくる光かがやくイルミネーション、そう、クリスマスの光による効果だ。

赤と緑のコントラストもクリスマスならではの色合いで心理的効果をもたらしてくれる。しかし、一つひとつのライトの調光が束となって視界に入ってくる、あの光景は特別だ。

光のきらめきは、私に元気と勇気を与えてくれる。話題性のあるイルミネーションでなくともいい。気持ちに新たな流れをつくり出してくれる希望の光に今年もまた癒されたい。そしてまた自分の夢に向かって頑張りたい。



イルミネーションという名の処方箋

教育学部子ども教育学科 橋村 晴美
毎日、当たり前前の生活を繰り返している。朝起

2015 クリスマス・シーズン ハンドベル・クワイア&聖歌隊(CCF)活動予定

ハンドベル・クワイア

- | | |
|--------------|-------------------|
| ・関キリスト教会 | 11月29日(日) 午前 |
| ・大野町総合町民センター | 12月12日(土) 16:30 |
| ・揖斐川町立図書館 | 12月12日(土) 19:00 |
| ・イオンモール各務原 | 12月13日(日) 午前・午後 |
| ・各務原キャンパス | 12月16日(水) クリスマス礼拝 |
| ・関キャンパス | 12月17日(木) クリスマス礼拝 |
| ・関特別支援学校 | 12月22日(火) 午後 |
| ・養生訓(岐阜市) | 12月26日(土) 午前 |



2015年度 入学式にて

今年もハンドベルを通して、多くの方々と過ごす時間が与えられ、メンバー一同感謝しております。奏でる音色がこころの安らぎにつながりますように。(幼児教育学科 岡田泰子)

聖歌隊 (CCF)

- ・12月15日(火) ランチ・タイム・コンサート (関キャンパス)
- ・12月17日(木) クリスマス礼拝 (関キャンパス)
- ・12月20日(日) 日本キリスト教団華陽教会 クリスマス礼拝

CCF (聖歌隊) は10月には中津川市の坂下教会の創立100周年記念行事にお呼びいただき、賛美の奉仕をさせていただきました。結成1年の小さな聖歌隊がこんなにも活動させていただけなのは先生方、教会の方々、みなさんのお力があったからです。みなさんの期待に応えられるよう、がんばります。みなさん聞きにきてください。(人間福祉学部2年 三谷綺菜)

10月12日のチャペル・アワーから

「パキスタンでクリスチャンとして生きる」

ズバイダ・シャーミン先生 (「アジア保健研修所(AHI)」研修生
NGO「世界的健康」代表、パキスタン)

「平和を実現する人々は幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる。」(マタイによる福音書5:9)

本日のこの聖書の箇所は、平和の実現に向けて働く自分にとって励みになっています。1991年、高校生だったころ、クリスチャン村全体が焼き討ちにあったところを目の当たりにしました。このきっかけは、クリスチャンとムスリムとの個人的な^{あつれき}軋轢でした。財産である家畜も殺されとても悲惨な気持ちになりました。この事実は私に大きな影響を与えました。その村を襲ったムスリムのグループは、焼き討ちにあった村人を助けた、私の住むクリスチャン村にも脅迫をしてきました。それから私はずっとなぜ彼らはこのようなことをするのかと考え続けました。なぜクリスチャンとムスリムが平和に共存できないのかと。パキスタンで平和を作り出すのに私に何ができるのかと。

私は宗教的な差別、特に冒とく罪によって迫害され虐げられているこれらの人々のために平和を作り出す働きを進めています。この冒とく罪はパキスタンでは少数者の人々の権利を侵害するために利用されています。クリスチャンはマイノリティの中では多数であり、いつもこの冒とく罪を犯したとして犠牲となっています。学生時代から何度も冒とく罪によって犠牲になった人々を見てきました。この冒とく罪を理由にクリスチャン村を焼き討ちにすることを、ムスリムは正当化してきました。

この事件がおびやかされている人々の命を守る

ため平和活動
を始める動機
になりました。
異なる宗教間
の対話による
相互理解、人
権と正義、女
性のエンパワ



右から二人目がシャーミン先生。
左隣りは通訳の中島隆宏先生。

メントとジェンダーの課題への取組などの活動を通して、地域の平和をとりもどそうとしています。

また、私が女性のエンパワメントにもかかわっているのは、パキスタンでは女性が家庭や職場で暴力など様々な課題に直面しているからです。私自身も職場で同様の課題を抱えています。私が勤めているもう一つの職場の病院では、上司が私ともう一人のクリスチャンの同僚にパワハラによって苦しませ、辞めさせようと圧力をかけてきます。彼はクリスチャン嫌いで有名です。

これらの課題は地域の平和があってこそ解決できるものです。私はAHI(アジア保健研修所)で学んだ「平和教育」「グッドガバナンス(良い統治)」「ボランティアズム」を自分の行動計画に反映させ現場で課題の解決に活用していきます。パキスタンでクリスチャンとして女性として生きることの困難さを抱えていますが、どうぞ皆様のお祈りを願います。(頁下段に続く)

2015年度 クリスマス礼拝

「今年のクリスマスプレゼントは」

日本キリスト教団南山教会 牧師 村山盛芳 先生



日 時：12月17日(木) 11:00~12:20

(第2時限の講義は行いません。)

会 場：関キャンパス グレースホール

<講演内容>

子どもの頃、サンタクロースが届けてくれるプレゼントがとても楽しみでした。大抵、欲しいものの中で一番値段の安いものが枕元に置かれていました。それでも嬉しかったことを覚えています。でも、ある年からサンタクロースが来なくなりました。両親に質問すると、誰か他の人にプレゼントをあげられるようになったから、サンタクロースが遠慮するようになったんだよ、と教えてくれました。遠慮しなくても良いのに、と思いました。それから、クリスマスくらい、献金を捧げなさいとか、教会に時間を捧げなさいとか、言われてキリスト教嫌いになり、しばらく教会を離れていた時期があります。

義務で何かを「しなさい」と言われると抵抗したくなりませんか？ 少なくとも私はそうでしたし、そうです。クリスマスだからプレゼントを渡せ、ご馳走しろ、と要求されると、したくなくなります。でも、素敵な、大切な人のためなら、プレゼントを渡したい、一緒に食事を楽しみたいって、自然に思えます。皆さんは今年のクリスマスどう過ごされるのでしょうか？ 素敵なクリスマスを楽しめるように祈っています。

さて、クリスマスプレゼントを買うと、綺麗な色の包装紙でラップしてくれますよね。クリスマスカラー、と呼ばれる色ですが、何色かご存知ですか？ 緑、白、赤です。なぜその3色か、そしてその色の意味はご存知でしょうか。雪、クリスマス・ツリー、サンタクロースの衣装と思われた人、残念です。白は、無垢無実を表しています。赤は十字架で流された血です。クリスマスツリーに使われる木は常緑樹で葉っぱの色が変化しませんから、永遠の命を表し、緑色はその象徴です。

クリスマスは、イエスがキリスト(救い主)として神さまが私たちにプレゼントしてくださったことを覚え、喜ぶ日です。神の大きな愛を義務でなく素直に感謝できると良いですね。

メリー・クリスマス！

<講師プロフィール>

村山盛芳(むらやま・もりよし) 大阪生まれ京都育ち、来年5月で還暦。同志社大学神学部卒業、シンガポール三一神学院大学院中退。日本基督教団南山教会牧師。新井教会(新潟県)、香港日本基督者会、台湾基督長老教会国際日語教会、浪花教会を経て現職。推理小説と音楽があればご機嫌。

(頁から続く)

ズバイダ・シャーミン先生は、パキスタンのNGO「世界的健康」代表として、スラムに暮らす女性や子どもの保健の向上のために働いておられ、また宗教的少数者として宗教間対話や異文化

理解の活動も行っておられます。過激な宗教思想を持つ人々がイスラームの教えを利用して少数者を弾圧する中で対話のために働くことは、まさに命がけのことだと思います。(志村 記)